

企業名： 奥村組

---

レポート名： 奥村組コーポレートレポート 2022

---

### 1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

奥村組は『「堅実経営」、「誠実施工」を信条に、社会から必要とされ続ける企業として社業の発展を通じ広く社会に貢献する』を経営理念としている。この経営理念のもと、奥村組は3つの基本方針を掲げている。1つ目が企業価値の向上、2つ目が事業領域の拡大、3つ目が人的資源の活用である。これら3つの方針は企業内部に向けた向上また、を意図したものであり、いかに企業自体そしてその資産を大切にしていかがしっかりとみえるものである。またこのレポートにはそれらの方針を遂行するためのさらなる具体的な取り組みが述べられており、透明性も高い。そのため、本レポートで奥村組の将来の姿は十分理解できると考える。

### 2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

本レポートにおいて、奥村組の強みが3つ挙げられていた。①「100年を超える実績と独自の技術力」、②『「堅実・誠実」のDNAを受け継ぐ人材力』、③「社会のニーズの変化に対応する提案力」である。この中で、特に①技術力の部分で競争優位性を感じた。この①技術力に関して本レポートで免震技術が印象に残った。p3~4では、歴史とともに免震技術で奥村組がパイオニア的存在であると強調している。トップメッセージにもあるように、40年ほど前、世間がそれほど免震技術に関心がなかった時から、奥村組は将来そのニーズが来ることを確信し免震技術に力を入れてきたという。こうした免震技術が奥村組の建設業界での競争優位性をもたらしたと感じた。

### 3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

強みとして挙げられていた②人材力の中に強固な財務基盤とあった。さらに「堅実経営」を信条として掲げており、これに関して代表取締役社長は、建設会社としての責務は建設して終わりではなくその後のメンテナンス等を含め長期的なスパンで請け負う必要がある、そしてそのために健全な経営を維持し、会社を存続させることが大切であると考えている。実際、自己資本比率を高めるという企業努力がみえることから、その何十年先をも見据えた顧客・ステークホルダーに対して安心を与えられるような企業経営をめざし、心がけていることがわかる。そして、2022年度から新しく中期経営計画を発表し、さらなる「企業価値の向上」「事業領域の拡大」「人的資源の活用」を推進すべく、具体的なプロセスを提示している。

これらのことから、競争優位性の持続性を理解することができた。

#### 4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

奥村組では人材育成に力を入れている。段階的に行われる研修など、年代別にキャリア設計が示されており社員に「技術者」としての価値をいかに付与するかよく理解できた。また、社員の健康管理についても「からだの健康づくり」の一環として健康ポイントアプリの導入などテクノロジーな活動もしている。そして身体だけでなく精神面でも「こころの健康づくり」として社員に積極的にアプローチしている。こういったことから、自身のスキルアップとともに健康面でも安心な環境で働くことが可能であると感じた。

#### 5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

本レポートでは事業ごとにその本部長のメッセージが掲載されており、より現場の声を知ることができ良いと感じた。さらに SDG s に絡めた活動を強調するため、奥村組の各取り組みに対応する SDG s の目標を示しておりヴィジュアル的に理解しやすかった。しかしその一方で、自己資本比率など奥村組の強みともいえる財務的数値はもっとアピールしてもよいと思った。実際、自己資本比率について話が上がったのはトップメッセージの 3~4 行で自己資本比率が高いとしか書かれていない。正確な数字で言えば、50.2%とほとんどの人が安全と思える数値を出しているのだから、「堅実経営」を理解してもらいたいなら、数字とともに示しエビデンスをもとにアピールするのがよいと感じた。